



大いなる夢を求めて

P T A会長 谷 明彦

立江中学校は、国民が日々の生活を営むのが精一杯で、物資も十分でない戦後の昭和22年に開校し、P T Aも生徒や学校への支援をとの保護者の思いで発足しました。今年で約70年を迎え、平成28年3月には立江中学校最後の第69回卒業生が巣立って行きます。長期にわたり、立江中学校P T A活動にご支援ご協力くださいました皆さまに、厚くお礼申し上げます。

私は、P T Aは学校の応援団と思っています。私たちの子どもたちが、安心して健やかに成長できるように、安全な社会や教育環境の整備に努め、生徒を支援していくP T Aの目的は明確であり必要であると考えています。P T A活動は、何をしてくれるかではなく、何ができるかを考え、共に創り、知恵を出し、汗を流し、行動する事が大切だと思います。P T Aは、これからの地域社会において、未来を担う子どもたちの教育環境をどのように創り育て、支えていくか考えていかなければなりません。

子どもたちが一日の大半を過ごす学校は、毎日、笑顔で楽しみにしている場所であってほしいと願っています。生徒たちは、立江中学校の校訓である「自主・協同・勉学」にのっとり、校風を継承し、仲間と共に学び助け合い、自立心や友情を育み、家族や先生たくさんの人々に支えられ日々成長しています。校歌にある、美しの立江川辺の校庭の樟の木が、生徒たちの成長を見まもっているかのように、今後は小松島南中学校P T Aが、生徒たちを支援くださることと思っています。

私たちは、この世に生まれてくることができ、親から子どもへと「いのち」のバトンが脈々とつなぐられ、立江中学校の「伝統」も先輩から在校生へとつながっています。学校の大きな行事である運動会のリレーは、目標を達成するためにチームが1つになって助け合いバトンをつなぎます。ひた向きに前へ進みゴールを目指す選手には、仲間たちや先生、在校生、保護者、地域の方々があらんかぎりの歓声や拍手などで応援します。

立江中学校の閉校にあたり、先輩からの良き伝統や想いを自分たちが受け継ぎ、次代へと託すところを、私は、この競技に重ねてみえています。リレーはバトンに、駅伝は襷に、様々な人々の想いを受け継いで行くという大きな目標があります。たくさんの仲間がいて、自分はその中の一人です。受け継いだ私たちは、苦しくても悲しいことがあっても途中で投げ出すことができません。最後までやり抜くことが大切であり、人生も似たところがあるのではないのでしょうか。

裾野が広く豊かだからこそ富士山が美しいように、立江中学校区のある立江町、櫛渕町、田野町など地域の方々や先生方の熱心なご指導やご支援のもと、約五千数百名が本校を卒業していきました。生徒たちは、立江中学校で学んだことを財産とし、新たな場所や地域で様々な人々と出会い、豊かな人間関係を築いて、先輩からの良き伝統や想いを自分たちが受け継ぎ、「大いなる夢を求めて」未来へとつなげて行ってくださるよう卒業生の1人として願っています。

結びとなりますが、次の時代を担う子どもたちを、見まもり育ててきた立江中学校、母校は閉校しますが、「大いなる夢を求めて」集い学んだ生徒や関わられた方々を、故郷でもある立江中学校は、今後もこの場所で、皆さまの記憶の中で、見まもり応援し続けてくれると思っています。